

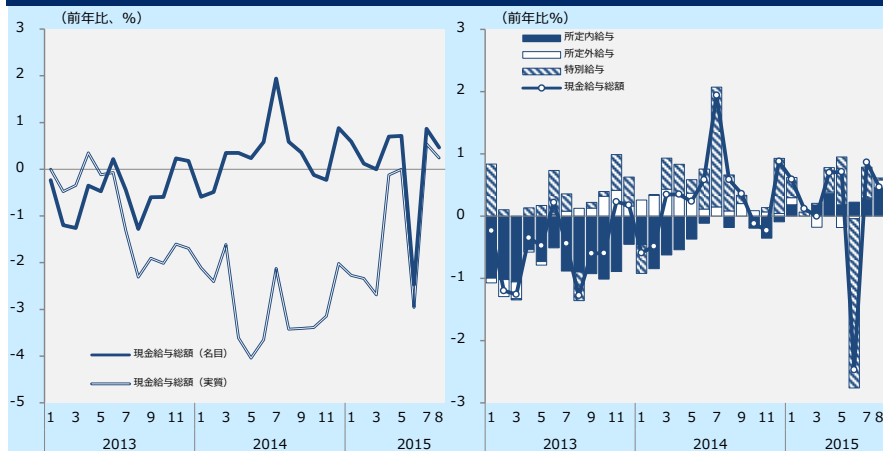
日本：毎月勤労統計（2015年8月）

—所定内給与は7年半ぶりの伸び—

MRI Daily Economic Points

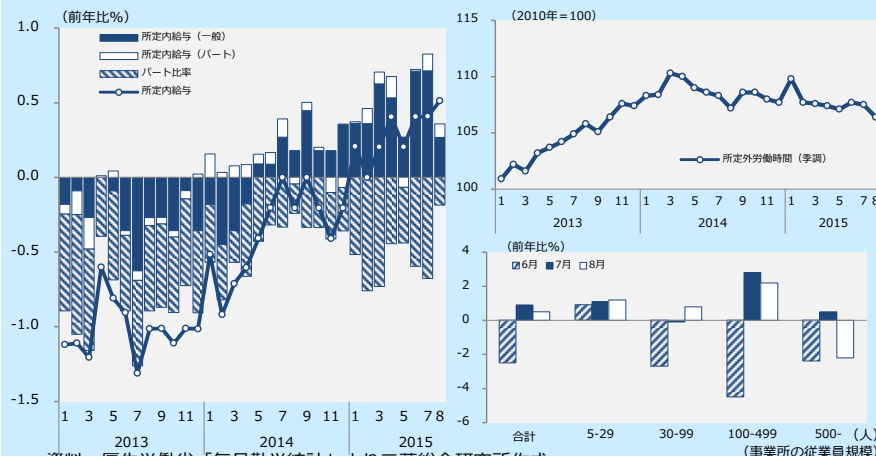
October 5, 2015

図表 現金給与総額の前年比／現金給与総額の寄与度分解



資料：厚生労働省「毎月勤労統計」より三菱総合研究所作成。

図表 所定内給与の寄与度分解（左）／所定外労働時間（右上） ／事業所規模別の現金給与総額の前年比（右下）



資料：厚生労働省「毎月勤労統計」より三菱総合研究所作成。

評価ポイント

2015年8月の結果

- 名目賃金（現金給与総額）は前年同月比+0.5%と上昇、実質賃金も同+0.2%と2か月連続で前年から増加した。
- 所定内給与の伸びを一般労働者・パート労働者の所定内給与の伸びと、給与水準が相対的に低いパート労働者比率の変化に寄与度分解すると、パート労働者比率の上昇が所定内給与全体を押し下げているものの、一般労働者の所定内給与の上昇による押し上げがそれを上回ること、全体では前年比で増加（前年同月比+0.5%）している。
- 8月の特別給与は前年同月比+0.6%と増加したものの、6-8月の特別給与（主に夏季賞与）の合計は、6月の特別給与の大幅な減少を受けて、前年から▲3.3%と大幅に減少している。ただし、今年の特別給与の減少には、今年1月の30人以上事業所のサンプルの入替えが影響している可能性がある。
- 所定外労働時間は前年同月比▲0.8%（季調済前月比：▲1.0%）と7か月連続のマイナスとなり、生産の落ち込みを受けて労働者が残業時間を減らす動きが鮮明になっている。

基調判断と今後の流れ

- 夏季賞与は毎月勤労統計上は前年から大幅減少となったが、所定内給与の前年比は2008年2月以来7年半ぶりの伸びとなっており、春闘賃上げや非正規雇用の待遇改善などを背景に、名目賃金（現金給与総額）は前年比で増加基調にある。消費税引上げの影響の一巡やガソリン価格の下落などもあり、実質賃金もプラスに転じている。
- 先行きも緩やかな賃金上昇の継続を見込むが、中国経済の急失速など实体经济面で下振れリスクが高まっている。既に生産の減少を通じて、所定外労働時間（残業時間）は減少しており、今後は所定外給与（残業代）の減少が現金給与総額の押し下げ要因となる可能性がある。